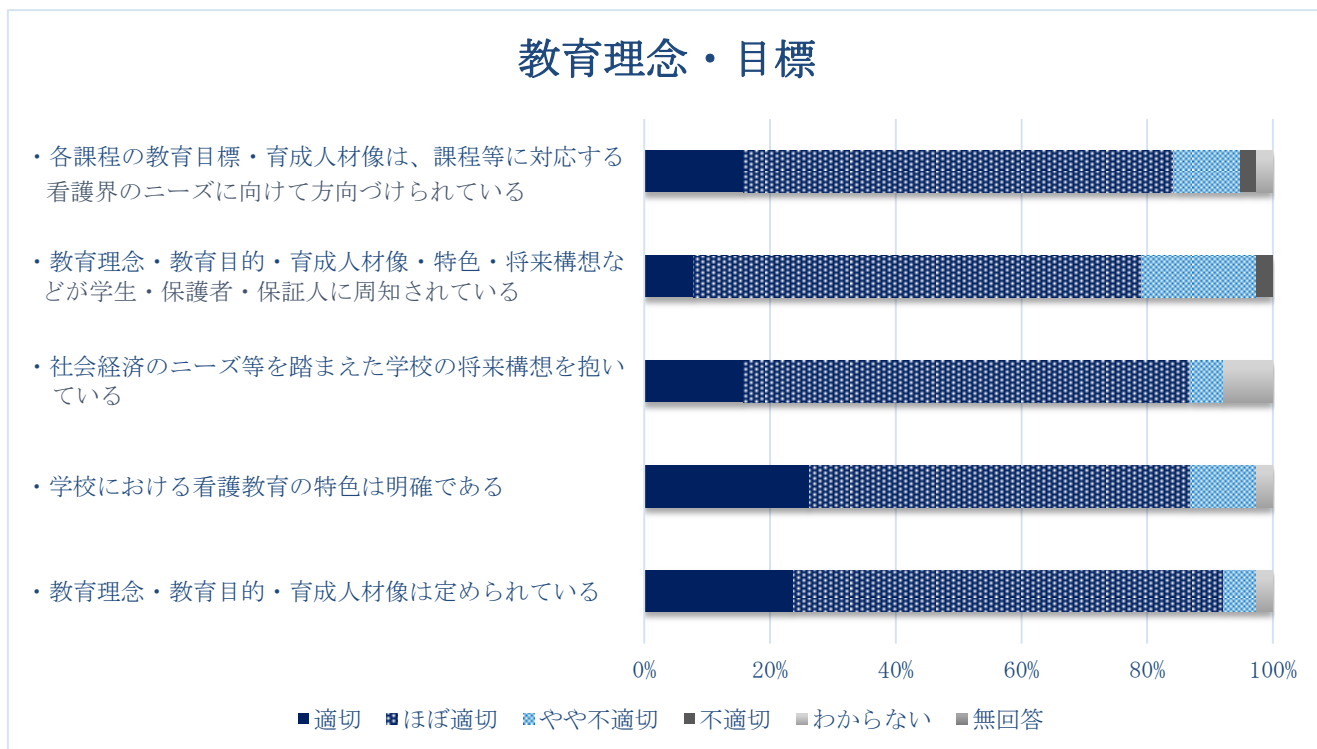


# 京都府医師会看護専門学校

## 平成26年度 自己点検・自己評価

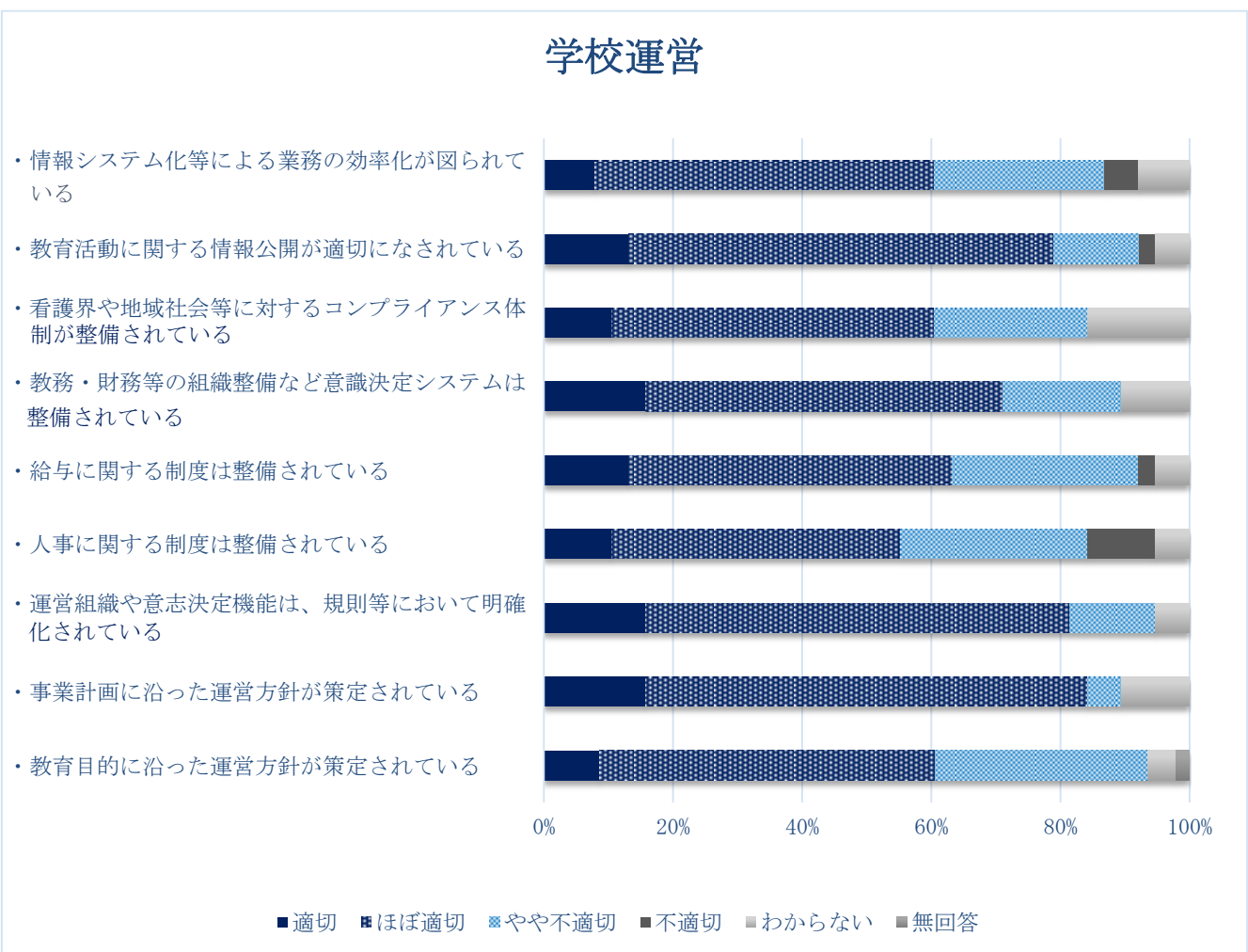
### I. 教育理念・目標



自己評価	外部評価
<p>教育理念・目標については昨年と同様に「適切」、「ほぼ適切」との回答が90%以上、看護教育の特性についても85%以上と高評価となっている。</p> <p>また、社会経済のニーズ・看護界のニーズは約70%が昨年と同様に「ほぼ適切」と回答している。また、ニーズに関しては「わからない」との回答が昨年は25%と高かったが、今年度は10%未満と減少している。これは、新人教育での成果や組織的に共通認識ができるよう意識づけができてきたためと考えられる。</p> <p>学生・保護者・保証人への周知については、「適切」、「ほぼ適切」との回答合わせて79%で、これはHPや入学時やオープンキャンパス、保証人会など、保護者・保証人にそれを知ってもらう機会が増えてきたためと考えられる。</p> <p>「ほぼ不適切」との回答が33%から18%に減少しており、今後も外部に向けて積極的に発信していくことが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来構想検討委員会での協議内容も伝達され教職員の周知により「学生・保護者・保証人への周知されている」の項目の適切が増えていくと考える。</li> <li>・理念・目的の周知については、その時々々の要所や場面で発信していく風土が身につくとよいと思う。</li> <li>・高い教育理念と目標に基づき学校運営がなされていると思われる。周知される部分の改善があれば良い。</li> </ul>

<p>学生には今後も継続した入学時からの学校ガイダンスの説明・指導等で共通理解を図るとともに、より効果的に学生のサポートが行えるよう教員間の共通理解を深めていくことが必要であると考えている。</p>	
---	--

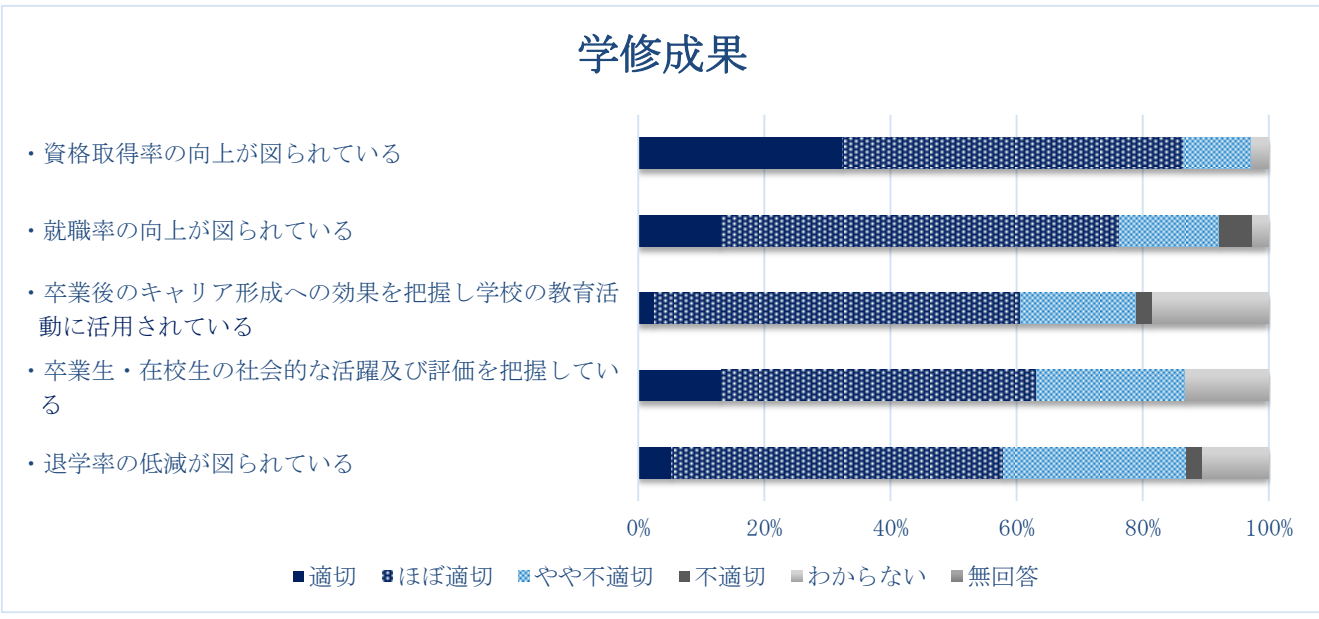
II. 組織運営  
 (1) 学校運営



自己評価	外部評価
<p>学校運営に関しては全体的に「わからない」「不適切」と回答する割合が高かった。特に、「人事に関する制度は整備されている」(44.7%)「看護界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されている」(39.5%)「情報システム化等による業務の効率化が図られている」(39.5%)といった項目はその割合が高い。その傾向は課程によるばらつきがあることから、特に新入職者を中心に</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入職員に対して運営ビジョンが見えにくいことは、どの企業においてもみられる。職場での人間関係もビジョンの共有に重要である。</li> <li>業務の効率化では、具体的にわかりやすく可視化することで教</li> </ul>

<p>学校運営のビジョンが見えないことが「わからない・不適切」に回答する理由の一つと考えられる。また、「教育活動に関する情報公開が適切になされている」の項目も決して肯定的回答が高率ではない。各課程の教育活動は適宜ホームページにアップできるシステムがあるので、活発に利用して課程の紹介をしていくことが必要である。</p> <p>昨年度の第三者委員会では「実習先での教員業務の多忙さからパート教員等によるフォロー体制の必要性」についてアドバイスを受けた。これについては引き続き、業務の精選やパート教員のより有効的な支援等により専任教員が担任業務等の学内業務に専念できる環境を整えていく必要がある。</p>	<p>員へのアピールにつながると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育目的に沿った運営方針が策定されている」の部分と、「人事に関する制度」の数値が適切という部分が上がるとよい。</li> <li>・情報公開については「知らない」事よりも「知らされていない」事への懸念の方が大きいと思われる。「わかり易い」情報公開をのぞむ。</li> </ul>
--	--

(2) 学修成果



自己評価	外部評価
<p>資格取得率・就職率については「適切」・「ほぼ適切」を合わせると 80%を超えている。これは昨年度とほぼ同様の結果を得ている。</p> <p>資格試験及び国家試験合格に向けては、学校全体として基礎学力に課題を有する学生や積み上げ学習の成果が見えにくい学生に対しては、教員の関わりを見直しながら更に向上させていく必要がある。既に外部講師による補講などを組み入れていることから今後も連携も密にしてい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の希望と志しを持ち入学してきてはいるが、日々の生活を営みながらの学びに対するモチベーションが時には低下することもあると思われる。</li> <li>・基礎学力も大切であるが、看護師として働き続けるための大切な授業であることを、教員も学</li> </ul>

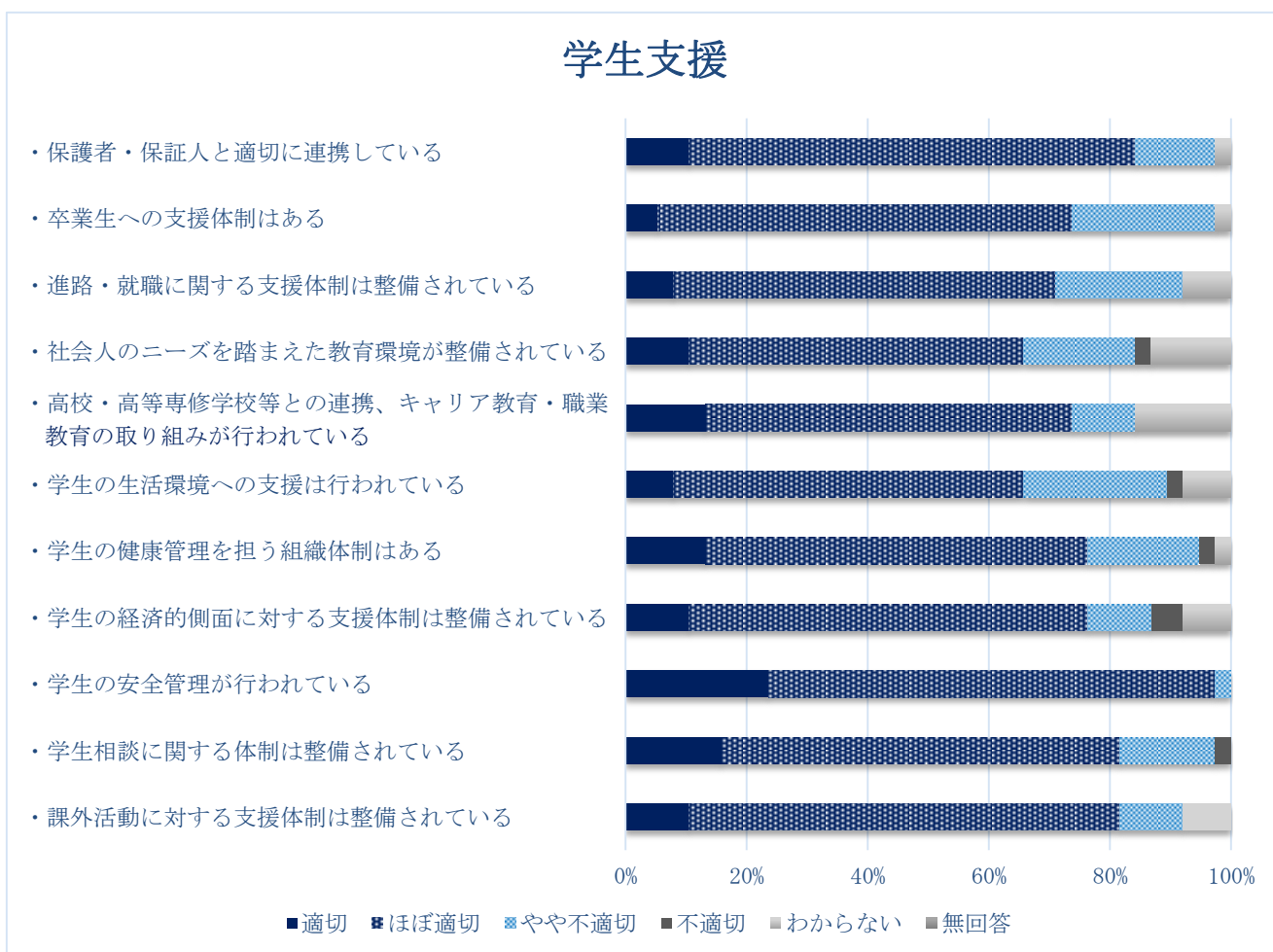
き、早い時期から対応を考えていくことが必要である。

卒業生・在校生の社会的活躍や卒業後のキャリア形成への効果については「適切」・「ほぼ適切」を合わせると50%を超える程度であるが、卒業後の学生の動向については確実な情報把握が困難なため、就職先への協力依頼やカムバックスクールの実施などで現状把握に努めることにより、どの様な関わりをするべきか見通しが立つものと言える。退学率の低減対策については、その原因として入学生の年齢及び看護師への就業動機等が多様化していることも大きく関係している。学習についていけないことや精神的な側面で学校生活継続が困難な学生が多い現状である。カウンセラー対応や面談の機会も増やしつつ、教員個々が対応できるスキルを強化するプログラムが必要である。

生も意識していく必要があると思う。(学習する事が将来何に繋がっていくのかを示しながら教育する)

- ・モチベーション維持のためにいつも見ているという姿勢を示す。
- ・資格取得率の向上が図られていることは良いと思う。
- ・退学者の低減については、社会情勢や価値観の変化によるところも影響していると思われる。状況を分析し個々の対応が必要と思われる。

### (3) 学生支援



自己評価	外部評価
<p>全体では、おおむね 70%～80%が適切、ほぼ適切と回答している。</p> <p>保護者・保証人と適切に連携しているに関しては保証人会を通して担任だけでなく、他の教員も関わる機会があることから 80%を超えたのではないかと考える。学生相談に関しては、スクールカウンセラーが定着してきているため、適切、ほぼ適切を加えると 80%を超えていると考えられる。4 課程を有する本校の特徴でもあるように、様々な年齢層や経歴を持つ学生の割合が多いことから、生活環境など多岐にわたって見えにくい部分であり、60%台となっているのではないかと考える。</p> <p>経済的支援に関しては各種修学資金や日本学生支援機構奨学金等の紹介を行っている。</p> <p>卒業生の支援体制に関しては離職予防を目的に始められたカムバックスクールがほぼ定着してきており、卒業生の近況などを知る良い機会となっている。次回も参加したいと希望する卒業生も多く今後の効果的な継続の在り方を検討していくことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の特性を踏まえて対応されていると思う。</li> <li>・支援はこのままで良いと思う。</li> <li>・カムバックスクールの定着は、学生にとっても就職した後も学校に戻れる機会となり、とても良いと思う。</li> <li>・高校等に出向き、看護師の職業説明や、資格取得のプロセス説明等をもっと行なった方がよい。</li> <li>・高校生等への看護体験の場をもっと増やせばよい。</li> </ul>

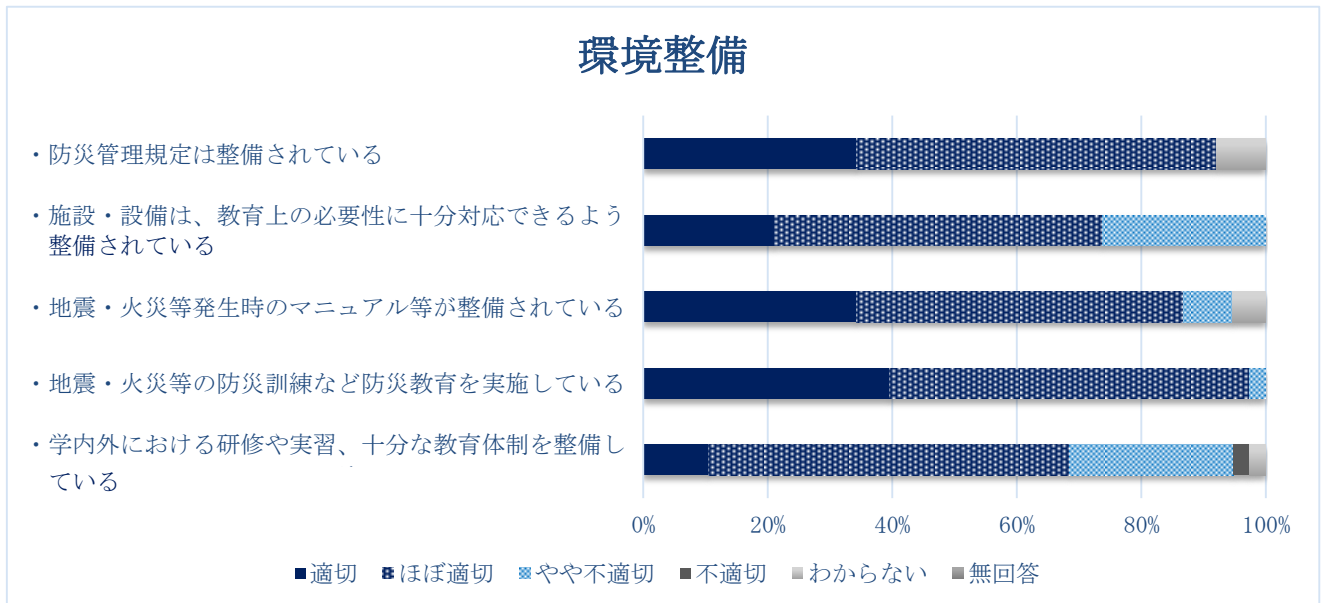
カムバックスクール

平成 26 年 8 月 5 日

講演テーマ：「認定看護師への道－重症集中ケア看護について－」

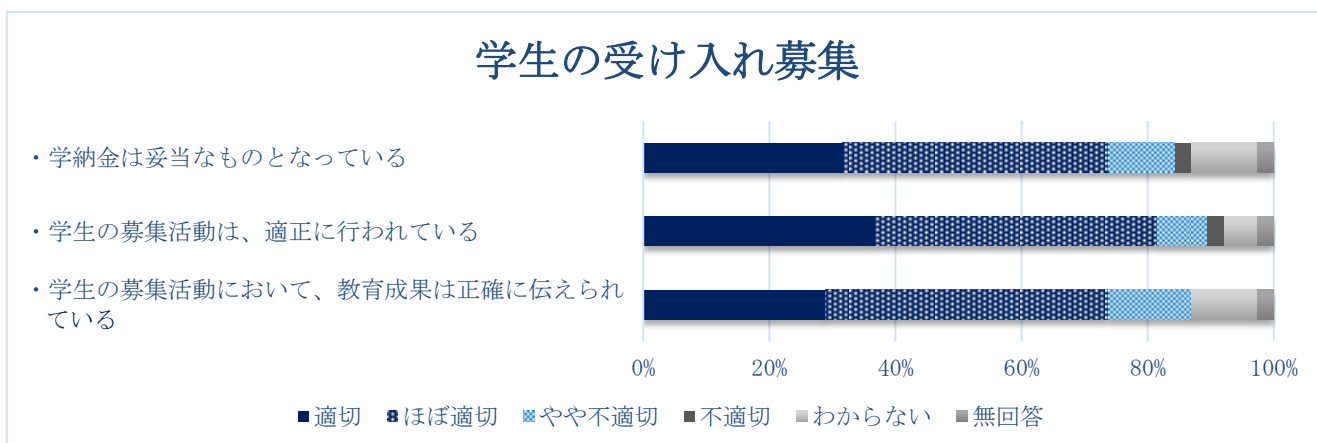
講師：畠（あきらか）勇二 先生 舞鶴共済病院 重症集中ケア認定看護師

(4) 環境整備



自己評価	外部評価
<p>地震・火災等の防災訓練など防災教育は防災訓練を通して認識は高くほとんどが適切、ほぼ適切と回答している。防災管理規定の整備、地震・火災等発生時のマニュアルの整備に関して「わからない」の回答も1割ある。いつ、どのような災害が起こるか分からない中、自分自身の役割を認識して他人事とならないような意識付けが必要である。</p> <p>教育環境に関してはやや不適切との回答が3割ある。設備に関しては優先度の高いものから順次整えられている。物的環境としては備品も徐々に劣化してきており随時点検をして計画的に整備をしていく必要がある。また人的環境を整えることも十分な教育体制を整備することにつながるため人材確保・人材育成も重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保は重要。</li> <li>・学生の記録指導の効率を上げる意味でPC化は出来ないか。</li> <li>・職場でも学校でも、環境整備は重要だと思う。日常からの心がけ(意識)見え方も違うと思う。</li> <li>・学習環境は良い。</li> <li>・物的・人的環境について、即時に対応すべきものと中長期的に対応するものとを区別してその都度見直しが必要。</li> </ul>

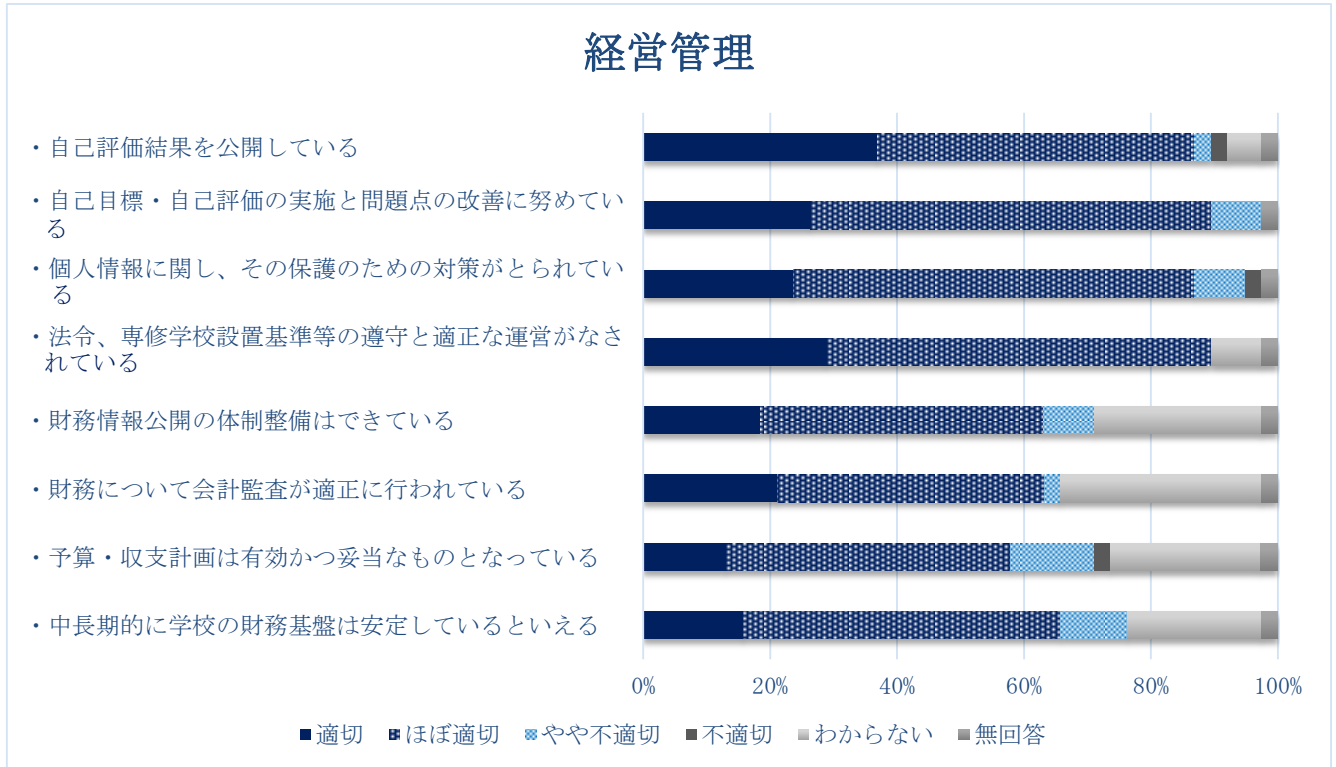
#### (5) 学生の受け入れ募集



自己評価	外部評価
<p>学生の受け入れ募集に関しては8割が適切、ほぼ適切との回答から、できていると思われる。今後もHPの内容やオープンキャンパスの企画を充実させていく。また教育成果を公開しながら伝える必要はある。</p> <p>学納金は1割がやや不適切と回答しているが、ほとんどが適切、ほぼ適切であるため問題はないと考える。</p> <p>学生の募集に関しては、他校から入学してくる在校生の卒業校にも資料を送付し、広く広報していく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の拡大が必要だと思う。</li> <li>・オープンキャンパスではよく雰囲気が良いと学生さんから耳にすることがあり、よいと思う。</li> <li>・問題ないと考える。</li> <li>・オープンキャンパス等実際に足を運んでもらうことも大きな成果を生む。また高校等実習について受け入れについても同様。</li> </ul>

	また高校（母校）へ顔の見えるメッセージも有効と思う。
--	----------------------------

(6) 経営管理

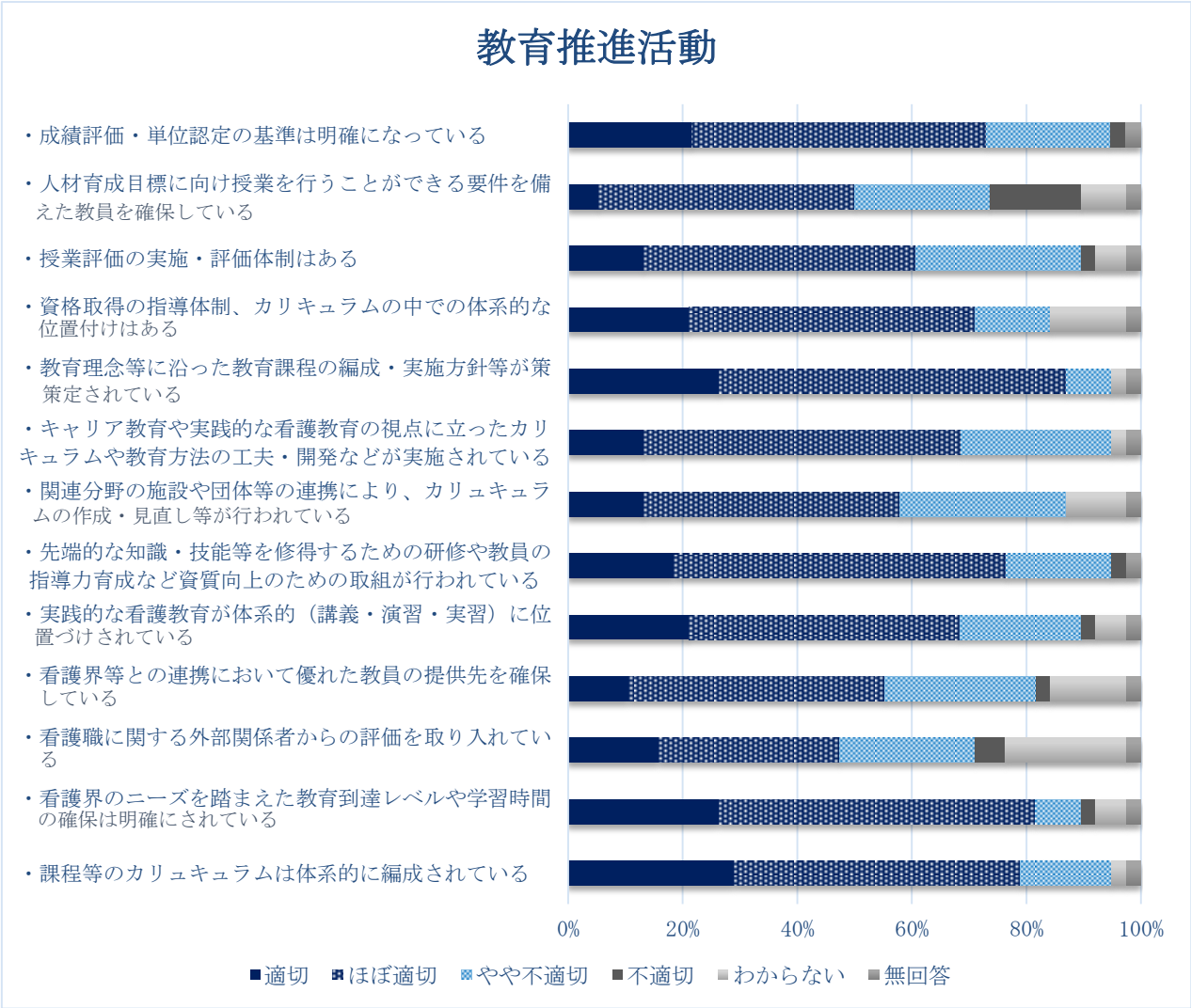


自己評価	外部評価
<p>自己点検・自己評価を毎年12月に実施しており、平成25年度よりHPで公開している。また、自己目標・自己評価も実施しているが、適切・やや適切が90%以下にとどまっている。これは、無回答と「わからない」の回答があることから、教員の認識の問題が考えられ、中途採用の教員を含め全教員が、行っていることの目的・意義を理解できるよう周知徹底を図る必要がある。</p> <p>財務に関しては、合同会議で事務長より資料を提示され説明を受けているが、「財務情報公開の体制整備」についても無回答・「わからない」が34%、「やや不適切」が7.9%ある。説明を受けても関心の度合いによるものか理解に繋がっていないのではないかと考えられる。無駄を無くしながら教育活動の更なる充実が図れるために、全教員が経営にも関心を持てるような取り組みとして全教員が参加を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場で働く教職員が経営を個々でも考えられる様、透明感のある説明が必要である。</li> <li>教員に周知する内容を、ある程度決めるのが良いと思う。</li> <li>財務管理については、教務の先生方は分からないという部分が多いので、意識の向上が図れるように何か取り組みが必要かと思う。</li> <li>財務情報については、公開している事、公開の方法等を示し、専門的なことや詳細については、その中で良いのでは？全体の傾</li> </ul>

原則としての定期的な説明が必要である。	向や方向性等、解り易いよう工夫してはどうか。
---------------------	------------------------

III. 教育活動

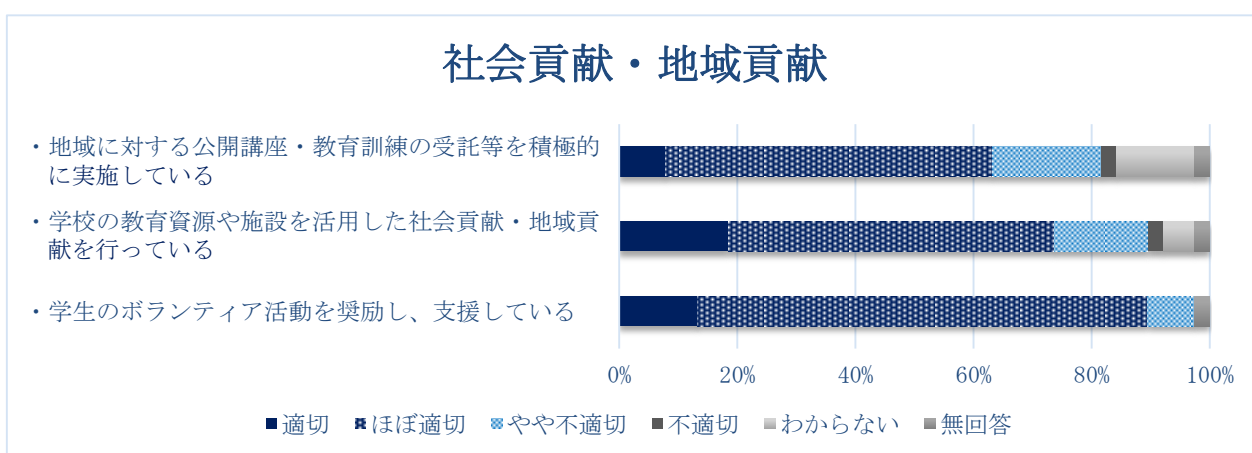
(1) 教育推進活動





自己評価	外部評価
<p>成績評価の基準や必要要件を満たした教員確保、実践的な教育方法の工夫、教員の指導力に関する内容、指導力育成のための研修制度、優秀な教員確保に関する関係機関との連携、また外部関係者からの評価等に関する内容となっている。13項目すべてにおいて適切との答えは5～30%と高くない。ほぼ適切を含めるとすべての項目が60%前後となる。</p> <p>最も低い得点は「看護界等との連携において優れた教員の提供先を確保している」であり適切、ほぼ適切を含めても50%に届かず、優れているか否かよりも常に教員が不足していると感じているのが現状であり、教員確保の困難さと人材確保への希望が感じられ、確実な教員確保が切実な問題かどうかがある。また「人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している」に関しても適切が5%前後、ほぼ適切を含めても50%にとどまる。</p> <p>教育内容の工夫やカリキュラムの作成、見直し等教育実践にかかわる具体的な内容を精選し、教員としてあるべき姿を考えていく必要がある。さらに今後も研修会の参加などを通して自己研鑽を深め、自信を持って学生の教育にかかわれるようにしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の方の自己研鑽に対する意識が高いため自己評価が低くなっているが、自信をもって学生に対応していただきたい。</li> <li>・教員が自信を持って働けるよう学校や上司からの支援が必要だと思う。</li> <li>・優秀な教員確保と実習充実が必要かと思う。学習時間の確保はできている。</li> <li>・教員不足に関しては、深刻な問題と考える。現教員の質の向上には、研修等にならび「やりがい」「自己肯定感」の育成も必要と考える。</li> </ul>

#### IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



自己評価	外部評価
<p>学校内の施設への開放は、長らく学校祭やバザー、古本市で実施している。また、オープンキャンパス年4回の実施や京都府看護協会東山・山科地区研修会の会場としていことなどがあげられる。また、学生部会で、毎週水曜日に通学時交通安全の声掛けなどが行われている。地域にある学校としての役割は果たせしているととらえていることから、適切・ほぼ適切と回答があったと考える。やや不適切との回答については、地域にある看護学校であることを考えると、注目しなければならないことといえる。しかし、施設開放で上記のように、長らくの実施が継続していることは、社会貢献ができていってよいのではないかと考えるが、やや不適切という回答については、課題事項が存在することが考えられる。</p> <p>学生のボランティア活動については、教員からの促しや学生の参加状況が良いとの認識があるといってよいと考えるため、ほぼ適切であるとの回答結果が出ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続けて活動してください。</li> <li>・地域の老健施設へのボランティア活動が良いと思う。</li> <li>・問題ないと考える。</li> <li>・お世話になっています。</li> </ul>

洛東高校健康福祉コース 実習受け入れ

1年生→准看護科 2回

2年生→2年課程 2回

洛東高校 性教育 助産学科 1回

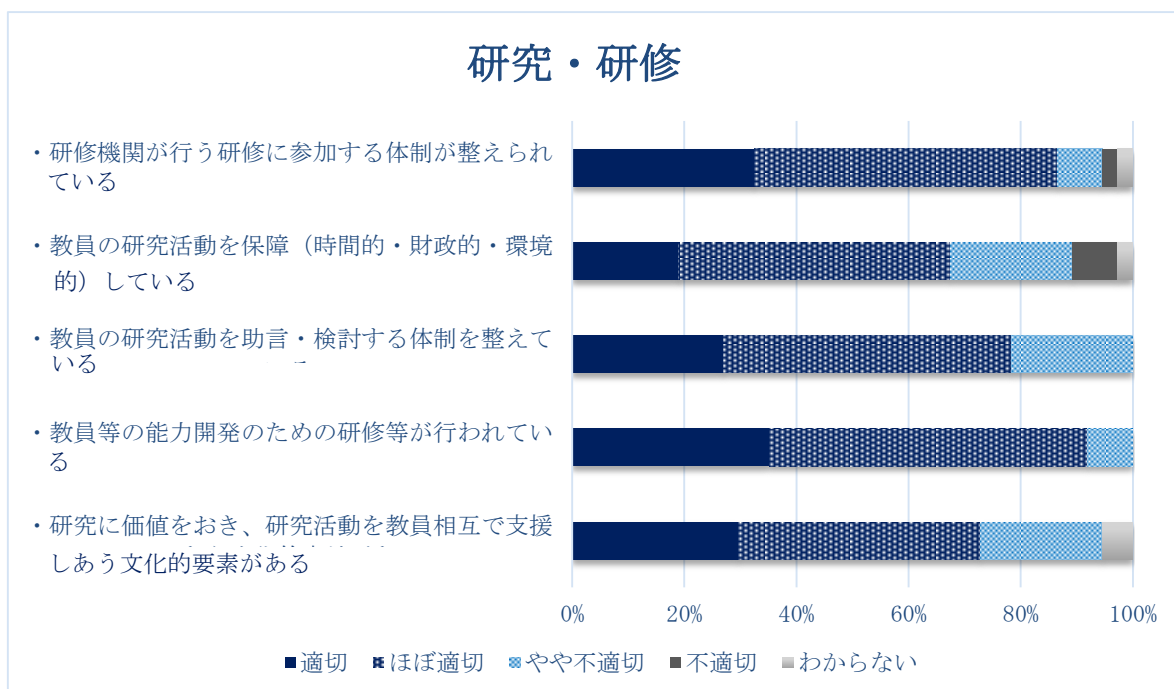
#### 【講師派遣】

京都府専任教員養成講習会	平成 26 年 4 月～12 月	看護論・看護教育方法演習 奥山幸子 看護教育課程論 迎千香子
実習指導者（看護師）講習会	平成 26 年 10 月～12 月	看護論 奥山幸子 看護教育課程 迎千香子 演習（専門分野 I） 山田佳代子

#### 【学会/職能関係】

第 22 回京都母性衛生学会総会・学術集会	7 月 5 日	一般口演 座長	秋山 寛子
京都母性衛生学会理事・副編集委員長			秋山 寛子
京都府助産師会教育委員/日本助産師学会実行委員			秋山 寛子
京都府看護協会推薦委員			秋山 寛子
「潜在助産師再就業促進事業」運営協議会委員			秋山 寛子
京都府看護教員養成講習会準備運営委員	平成 26 年 4 月～12 月		奥山 幸子
京都府看護教員継続研修運営委員	平成 27 年 3 月～		奥山 幸子

## V. 研究・研修



自己評価	外部評価
<p>研究・研修については、無回答も無く、教員一人一人が業務の中で研究・研修に参加し、確実に自己評価ができた項目ではないかと考える。</p> <p>教員は研究の必要性は理解しているが、現状は学生の教育対応で、研究に費やす時間がとれていない現状がある。これが、研究に参加する体制について・研究活動を保証するという問いの中で、不適切という回答があった理由と考える。また、学生指導のためや教員の能力開発のための研修は、年間で一人一回は研修出席を掲げていることの効果であるといえる。総合的には、研究に費やす体制・環境を整えることが課題であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護に係る多くの人々は、常に向上を目指す。しかし自己の時間が少なくストレスを感じる。配慮をもって充足を願う。</li> <li>・研究・研修は、時間とお金が必要です。ここへの支援強化がキャリアアップにつながると思います。</li> <li>・先生方の研修への参加は良いと思う。教育を受ける体制の構築と環境整備を期待します。</li> </ul>

### 【学校内】

新人教員研修① 4月1日（火）～5日（土）4名

新人教員研修② 8月4日（月）12名

第1回 6月7日（土） 「臨床と連携をとりながら、効果的な実習指導をめざして」  
講師 池西静江先生

第2回 9月6日（火） 「考える看護学生を育てるために指導者がこころがけること  
～チームの中で学び、育つための方法～」  
講師 新井英靖先生

シンポジウム 12月25日(木)

研究発表 3月24日(火) 7演題発表

長期研修報告会 12月25日(木)(京都府専任教員養成講習会3名)

3月24日(火)(東京慈恵会教務主任養成講習会1名)

## 【学校外】

### 1. 学会発表

日本看護学校連絡協議会学会

「皮膚モデルを使用した技術効果について～ドレッシング材の交換技術を通して」

岡田弘美・室三千代・奥山幸子

「助産学科学生の集団活動に関する意識」

橋戸好美・秋山寛子・増田よし美・守屋嘉奈子

日本看護協会ヘルスプロモーション学会

「高齢者が看護学校において模擬患者をすることの効果」

奥山幸子・室三千代

日本精神看護学術集会専門Ⅱ(北海道)

「パーソナルスペースに対する意識調査～患者との心の距離感と実際に距離感」

迎千香子・橋本登喜子

第22回京都母性衛生学会学術集会

「小学校教諭の性教育実施に対する思い」

飯場希予他6期生、秋山寛子、橋戸よし美

### 2. 研修会等

日本看護技術学会(京都) 1名

日本看護協会研修(神戸) 1名

京都府看護協会研修 23名

京都府看護学校連絡協議会研修 6名

京都SST研究会 1名

医学書院看護教員「実力養成」講座2014(大阪) 1名

日本看護学校協議会近畿ブロック夏期研修会(大阪) 1名

エキスパートナーズ・フォーラム2014(大阪) 1名

第三者評価フォーラム(大阪) 1名

### 3. 論文

秋山寛子, 橋戸よし美. 助産師学生による性教育実践. 京都母性衛生学会誌第22巻1号. 2014.5

秋山寛子. 新卒看護職員の離職予防を目指したカムバックスクールの開催による効果. 看護人材育成. 2015.2・3月号

奥山幸子・室三千代. 高齢者が看護学校において模擬患者をすることの意義. 日本看護協会ヘルスプロモーション学会. 2015.03 45号 P191-194

迎千香子, 橋本登喜子. パーソナルスペースに対する意識調査～患者との心の距離感と実際に距離感の捉え方に違いはあるのか. 日本精神科看護技術協会. 57(3)2014.